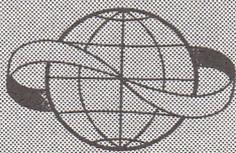


ヴェーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



第35号

発行 東多摩再資源化事業協同組合
理事長 紺野武郎 編集長 吉浦高志
東京都東村山市久米川町1-16-18
Tel&Fax 042-395-9788

今こそ必要な

消費者自身の行動

清瀬市の市民団体でつくる「清瀬ごみともだち」は、平成六年に発足して以来、ごみやリサイクルはじめ広範な環境問題に対し活発な活動を続けています。今は、容器包装類、特に缶ビールを入れるマルチパックの行方に取り組んでいる。このところ雑紙回収が普及し、紙製容器類の資源化も盛んになり、市民から分別する方法の問合せが多くなっているという自治体担当者のお話も聞いた。

このパックは、北米産木材の端材で作られた未ざらし(茶色)の板紙を防水加工した物で、原紙は全量輸入している。

ビール各社は、缶ビール二四本入りの段ボールケースの中に、六本用のマルチパック四枚を添付して分割売りを容易にした。

紙製容器類は、製紙原料としてのリサイクルには適しないものが多く、容器包装リサイクル法に則って別途回収処理することになっている。ところが実際は容リ法のもとで回収している市町村は、ほんの僅かしかない。従来の古紙回収に組み込んで雑紙として回収する場合は、各種コート紙や樹脂含

浸紙・金銀紙・臭いのついた紙など古紙センターで定める禁忌品を、可燃ごみとして分別することが絶対条件となる。

前述のマルチパック紙も、当然禁忌品扱いとなり、可燃ごみとして処理するのが適切である。しかし、紙製容器類には紙マークが付いている、市民は当然再生資源物として分別排出をする。

家庭から出てくるこの種の古紙は年々増加し、古紙業者も取扱に苦慮しているが、すべてごみとして分別もできず、段ボールや雑誌の中に混入してプレスされ出荷しているものも多い。

製紙メーカーのほうも、防水加工紙は溶解せず、残渣として焼却処分されるのが多いそうだ。

ビール会社は、容リ協会に処理料を支払っているから、その先でリサイクルされているものと信じ込んでいたと言う。

容器包装リサイクル法の改正作業も大詰めに来たようだが、自治体や市民要望の発生抑制策等はまだ受け入れられず、動脈産業有利な方向で押し切られそうだ。

法律の抜け穴を突いた姑息な手段や、環境イメージの宣伝を優先して容器包装の選択をするメーカーも少なくない。

ビール缶のマルチパックも、本来必要無い、作るべきで無い代物ではないだろうか。

紙なら環境に優しいと言う迷信も改めるべきだろう。

紙の特質は、濡れやすく破れやすく燃えやすい天然資源だ。

その特質を否定するような特殊な加工を施せば、それだけ特殊な薬品や材料を使い余計なエネルギーを使い、後処理も大変困難になって環境を汚すことになる。

後始末は自治体や市民任せでは製造者として無責任の限りだが、市民も今こそ、マイバック運動の実践で抵抗を示すべきだ。

「もったいない」を3Rの世界共通語にしたワンガリ・マータイさんが、日本の「風呂敷」も世界に広めたいと講演している。

室町時代からの文化財であり、多機能のマイバックとして、時には最も心のこもった包装具として使われてきたことを我々はすっかり忘れていた。

法律やルールで進める強制的なリサイクルで物は生き返らない。

「いらぬものを」をリストアップして公表し(本紙六頁参照)、消費者から不必要品のレッテルでも貼らなければ効果的な発生抑制策にはならないと思う。(T・K)

直言拝聴

中国への道—出合いの旅—

株式会社松本光春商店 代表取締役

松本寿一



（久米川紙業の吉浦社長から、弊社が中国へ進出した経験をもとに、本紙に書くよう依頼されましたが、僭越なこととの思いから一度はお断りしたものの、是非に！とのお申し越しを頂き、皆様方に少しでもお役に立つことがあればと思ひ直し、筆を執ることにしました。

八年前のことです。私の次男が米国の大学を卒業し、単身中国に赴き自らの夢を紡ごうとしていました。私は、彼に自分の若き日を重ね、悠々の時間を湛え、無辺の空間に広がる中国に対し、目眩く思いを裡に、挑戦者の気概をもって古紙事業を展開する決意をしたのでした。それは、実は積年の思いでした。

折しも中国は、社会主義政策から自由経済導入路線への変革によって、大きく変わろうとしていました。時代の変わり目にビジネスチャンス有り！有言即行。とは言え、文字通りゼロからのスタートです。習慣・制度・考え方の違い、目粉しく変わる法律、次から次へと生じる困難を、次男が先兵となつて誠実に本音で中国人と向き合うことだけを術（すべ）に一つ一つ解決するほかありませんでした。苦労はもとより覚悟していましたが、時には「中国進出」は自分の

力を過信した無謀なことかと怯むこともしばしばでした。

しかし、有難いことに私達に力を借してくれる中国人が一人二人と増えてきました。外国人であろうと、そこは人と人との出会いです。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。彼等が支えてくれたのです。

平成十六年三月に、北京・通州（トンジョウ）に中国に於ける我々による第一番目の工場を稼働させた日を、私は生涯忘れないでしょう。

早朝から古紙を満載したトラックが次から次へと工場に到着し、全員が中国人である従業員によって作業が進められていくさまを、まだ厳しい寒風に吹かれながら観ていた次男と私は、因らざるも感涙を禁じ得ませんでした。

さて、古紙を回収集荷し製紙原料に加工するという事業の第一段階はスタートできたものの、それを製紙メーカーに納入販売することとは困難を極めました。

中国では卸問屋というものがなく、零細な回収業者がバラの古紙を直接メーカーに納入する仕組みです。私共が、回収業者と製紙メーカーの接点となり、バラ古紙を買取り、製紙原料に加工し、メーカーに販

売するということは、言わば古紙の流通革命であったわけですが、社会に必要とされる人間は成長する！と次男や中国人従業員を励まし、社会に必要とされる企業は発展する！と自らを鼓舞して頑張りました。

そして、平成十六年十二月に大連工場、十七年五月には北京・昌平（チャンピン）工場を設立した頃から製紙メーカーに認知され始め、念願であった独資（日中の合弁ではなく中国に於ける独立行政法人会社）の設立認可を世界の古紙業界で初めて取得することもでき、本格的な軌道に乗ったと言える段階に入ることとなったのです。更に、十七年十二月に北京・大興（クーシン）工場を設立しました。

今や中国は、中国人自身が設立したヤードが急速に増えており、回収業者・卸問屋・製紙メーカーという、日本と同様の流通機構が確立する道を着々と歩んでおります。

中国に於ける右の四工場では、約百名の従業員全員が中国人で、私は、運営の全てを彼等に任せています。中国人は非常にプライドの高い国民です。

私は、彼等をパートナーとして信頼し、彼等が、誇りと参画意識と

希望をもって働ける環境づくりをすることが私の重要な仕事だと思っています。社長と従業員とは主従関係にあるのではなく、おたがいが自分の役割を果たすことで共通の夢を実現できるパートナーでありたいと考えています。

今、彼等は、希望をもって一生懸命頑張ってくれています。やがて彼等が業界の担い手として育ち、後輩達を育て、中国古紙業界が大いに発展することを、不遜にも日中の小さな架け橋たらんことを念願している私は、これからも微力ながら頑張ろうと思っております。

神様のなし給うことなのでしようかー人と人との出会いには、運命的というほかない不思議と感動を覚えます。この出会いによって、私はその人達に助けられ支えられて生きているのだと、心から思わずにはおれません。

これからも、私の「であいの旅」は続くのだと、心躍る想いで今日も歩んでいます。

東京都資源回収事業協同組合、並びに、東多摩再資源化事業協同組合の皆様、中国の当社のヤードをご高覧頂ければ光栄に存じます。近い将来、皆様をご案内できる日を心から楽しみにしております。

末筆ながら、本文執筆の機会をお与えくださいました吉浦社長に、お礼を申しあげます。



松本光春商店・大連工場



松本光春商店・通州工場
(段ボール選別風景)



松本光春商店・通州工場
(段ボール持込風景)

組合安全講習会開催

去る三月二十五日小平・柳泉園リサイクルセンターの両従業員全員が参加して安全講習会を開催した。

冒頭に、昨年起きたJR福地山線脱線事故や羽越線特急列車事故の重大事故、また一級建築士によるマンション・ホテルの耐震強度偽装事件、航空会社の整備不良によるトラブル等を例に上げ、安全上深刻な問題となったとの説明あり。特に早さや利便性を追求する事は安心、安全と相容れ



2006年安全講習会

ない要素を多く含んでいることを自覚して作業にあたることを確認した。

また、紺野理事長からは、組合活動の状況や、リサイクル業界全体の現状説明があった。さらに両センターの従業員は各自健康に気を付け、作業で蓄積してきた優れた技能や知識を磨き、安全第一を最優先させ効率的な作業を心掛けて欲しいと挨拶した。そして安全作業を進める上での安全要項を讀上げ徹底することを要望し、最後にリサイクルに関するテスト締めくくった。

(小畑)

清瀬市民が組合ヤード

視察のため来組

去る平成十八年一月二十四日(火)、「清瀬市消費者団体連絡会」に所属する三十名程の市民の方々が、当組合のヤードを視察する為来組した。

視察したのは、東村山市久米川町にあるJP資源株式会社東村山営業所。

大型バスで到着した清瀬市民の方々は、同所の原口営業所長から説明を受けながら、古紙の搬入から選別処理までの一連の工程を視

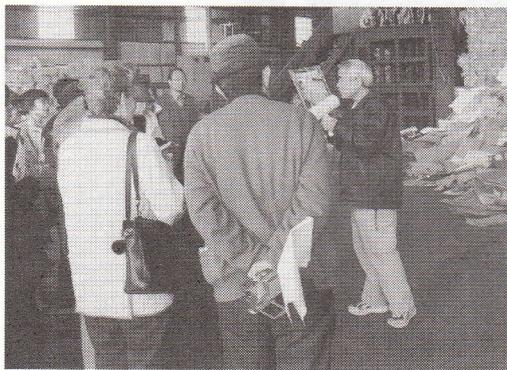
察していた。

この日は、小平市・清瀬市から古紙や古布が搬入されてくる日でもあったので、ヤード内は資源回収車やフォークリフトなどの重機が頻繁に行き交っていたため、危険を避けながらの視察となった。

清瀬市民の方々は、古紙の選別機の稼働の様子や、作業員の選別作業を興味深そうに視察し、高い関心を示していた。

中でも、再資源化処理で出来上がった古紙プレスが、一塊当たり約一トンの重さで作られているとの説明を聞いた時は、大変驚いていた。

視察終了後、質疑応答が行われ、清瀬市民の方々からは、古紙の分



清瀬市民の視察で説明する原口所長

トイレットペーパー 「フューラン」 (65m巻き・100個入り)

- 地元の市役所・公共施設・事業所などから収集されたミックス雑古紙 100% 使用!
- 塩素系、酸素系、苛性ソーダなど化学薬品を使わない無漂白品!
- 東村山市・西東京市等の小中学校、公共施設、保育園などで使用され好評を得ています!

(価格)1ケース 2,600 円、10 ケース以上1ケース 2,470 円
(いずれも消費税・配達料込)

ご注文は当組合までお願いします。TEL&FAX : 042-395-9788

別方法や、古布のリサイクルの現状などについて質問があった。これに対し、当組合の紺野理事長が、古紙の禁忌品や、古布の輸出の実情などについて丁寧に説明し、清瀬市民の方々の理解を得ていた。

(柿崎)

東京都リサイクル事業協会が 社団法人化される

去る平成十八年三月一日、東京都リサイクル事業協会(東リ協会)が、社団法人化の認可を取得し、登記の完了を経て、正式に社団法人となった。

当協会は、昨年七月に、東京都内で再生資源を取り扱う三団体

(東京都リサイクル事業団体連合会・東京二十三区再生資源業者連絡協議会・多摩地域リサイクル事業団体連合会)が、統合して結成、更に、今年二月二日に設立総会を行って、正式に発足した団体である。

【設立趣意書】

今日、我国のリサイクル産業は大きな転換期を迎えている。循環型社会形成推進基本法をはじめとする、リサイクル関連法が相次いで制定施行され、リサイクル推進は社会的使命となっている。我々再生資源業界は、効率的なリサイクルシステムを構築し推進することで、循環型社会の一翼を担ってきた。しかし、容器包装リサイクル法をはじめとする新しい再資源化関連法は、既存のリサイクルシステム及びその業に携わる者の実態を考慮・反映されたものとは言い難く、持続的で効率的な循環型社会の構築はもとより、ひいては都民及び関連業界にとって不利益をもたらす結果となることも懸念されるところである。

また将来、より多くの再生資源を大量にリサイクルすることは必至となり、業界はより一層効率的なリサイクルシステム構築のために、研鑽・努力することが喫緊の課題となっている。

循環型社会確立のためには、都民・行政・リサイクル関連事業者がパートナーシップをもとに、効率的リサイクルシステムを構築しなければならない。その際、公正で適切な提言や、具体的行動こそがリサイクル業界の責務といえる。

よって「東京都リサイクル事業団体連合会」、「東京二十三区再生資源業者連絡協議会」、「多摩地区リサイクル事業団体連合会」の実績を継承しつつ、当該三者が結束した新たな枠組みを創造することで、都内全域を対象とした資源循環型社会システム構築に貢献すべく、ここに「社団法人東京都リサイクル事業協会」を設立するものである。

〔東リ協会への加盟団体〕

(広域団体) 東京都資源回収事業協同組合・東京壘容器協同組合・関東製紙原料直納商工組合・東京製紙原料協同組合・東京硝子原料問屋協同組合・東京廃棄物事業協同組合・東都魚さい処理協同組合・関東古繊維協会

(地域団体) 千代田区リサイクル事業協同組合・中央資源リサイクル事業協同組合・港区リサイクル事業協同組合・新宿区リサイクル事業協同組合・東京包装器リサイクル協同組合・文京区リサイクル事業協同組合・墨田区リサイクル事業協同組合・江東区リサイクル協同組合・目黒区古紙回収業者連絡協議会・大田区リサイクル事業協同組合・世田谷区リサイクル協同組合・渋谷区リサイクル事業協同組合・中野区リサイクル事業協同組合

・中野区栄資源回収事業協同組合・北区リサイクラ事業協同組合・東京都環境リサイクリング事業協同組合・協同組合板橋資源化センター・青梅資源リサイクル事業協同組合・八王子再生資源事業協同組合・八王子再生資源管理協同組合・日野市資源リサイクル事業協同組合

東多摩再資源化事業協同組合・多摩市リサイクル協同組合・町田市資源協同組合

〔東リ協会の再生資源リサイクルに関する事業計画〕

(1) 調査研究・情報交換事業
①びん・缶等再生資源流通実態調査

②家庭系ごみ有料化に伴う効率的リサイクルシステムの研究

③行政との情報交換会

(2) 研修事業

①リサイクル技術・システムセミナーの開催

②資源化施設・リサイクル先進都市等見学会の開催

(3) 事業者への相談事業

(4) リサイクル普及事業

①リサイクルフォーラムの開催

②地域リサイクル相談室の開設

③小・中学校へリサイクル出前講座

④子供リサイクル体験ツアーの実施

⑤インターネットによるリサイクル相談サイトの開設

⑥電話によるリサイクル相談の受付

(5) 機関誌の発行事業など

尚、会長には畑俊一氏が、また、副会長には当組合の紺野理事長などが選ばれた。

《こんなもの(物) いらないランキング調査》に参加してください

—ご 案 内—

環境基本法で謳われた3Rの最重要項目が、リデュース(発生抑制)ですが、市場原理の自由主義経済下であって、合法的な生産や販売の制限は叶わない話です。

リサイクルを促進する各種法律ができて、動脈産業の売するための努力誘惑は尽きることなく、知らぬ間に無駄な浪費につながるシステムに利用されている場合もあります。

そこで我々は『3Rを正しく進める調査隊』を立ち上げて「こんなものいらない」ランキング調査を実施することに致しました。

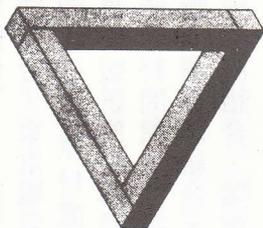
いらない物を集計して、その都度ワースト順に組合ホームページなどに掲載します。

年齢・性別・生活環境・思想などで、ものの要不要は千差万別ですが、調査隊が集計したワースト10ぐらいのものは、「国民共通の不必要品」としてレッテルを張りましょう。

なお、この運動の推進にアイデアやご意見を頂ける方のご連絡を歓迎いたします。皆様多数のご参加をお願い申し上げます。

—調 査 方 法—

- ①「こんな物いらないと思うもの」をFAXか郵送などでお寄せ下さい。
ただし特定のものを誹謗・中傷するような内容はご遠慮下さい。
- ②性別、年齢、職業、現住地などを書き添えて下さい。
- ③お寄せ頂いた品目を随時集計し、ワースト10品目を当組合のホームページや機関紙「ヴィーナス通信」などで経過報告して参ります。
- ④一年後ワースト10に残った物を「国民共通の不必要品」として発表致します。



東多摩再資源化事業協同組合

「3Rを正しく進める調査隊」本部

住所：東村山市久米川町 1-16-18

Tel・Fax042-395-9788

HPアドレス：<http://www.h-recycle.or.jp/>



※当組合員に「こんな物いらない」を聞いたところ次のようなものが挙がりました。

二重三重の食品包装材、新聞古紙入れ整理袋、パソコンなどの厚い説明書、電話帳、缶ビールを入れるマルチパック、酒・ジュース・コーヒーなどの紙パック、レジ袋、純パルプのトイレットペーパー、クリーニング屋のハンガー、納豆のタレ、刺身パックのプラスチック筐、たばこ、2千円札・1円玉、など、他にも天下一先特殊法人そして賞味期限など多数登場いたしました。

※「もの」には、物・者・モノ(システムや法律など)と色々考えられますが、本調査では、物に限ってのランキング調査を行ないたいと思います。地球環境を守る視点から、発生抑制に沿った「いらない物」を、日常生活の身近な中から見つけてください。

※3R：リデュース(発生抑制)。リユース(再使用、びんなど洗ってそのまま使える物)。

リサイクル(再利用、古紙など再び各種紙の原料として使用される物)

東村山市で市民ごみフォーラム開催 モアイ沈黙のメッセージ

去る二月一八日東村山市環境部主導で市民ごみフォーラムが市民センターで開催された。

第一部、基調講演は田中充氏（法政大学社会学部教授・秋水園整備計画研究調査会会長）による「循環型社会のごみ政策」と題して講演が行われた。

印象に残った事を記してみたい。高度な社会と文化の没落が起きる原因をイースター島を例に挙げて説明された。この島は南米大陸から三千六キロほど離れた南太平洋に浮かぶ小さな島（小豆島よりやや大きい程度）。隔絶した不毛の島に二千八百人ほどの住民がいる。かつてこの島は高木を含む植生が広がっていたが火山島で水資源に乏しく、作物はサツマイモ程度であったと云われている。開墾による農地の拡大と人口増（最盛期には一万人を超えていた）、それに伴う燃料、住宅、漁業用カヌーと木材が広く利用された。この島を有名にしたのはモアイとよばれる巨大な上半身の石像だ。高さ十メートル、重さ五十トンを超えるこの石像は、立っているもの、埋もれ

ているものを含めると千体以上あると云われる。立像のほとんどは、海岸沿いに海を背にして立てられている。この像は部族ごとの守り神としてなのか、祭祀用なのか、あるいは權威の象徴なのか何のたに建設されたのか真相は未だ解明されていない。多くの謎に包まれたままである。

この巨大な石像を運搬するために丸太が大量に消費され、その伐採により森林は減少の一途をたどった。それでも石像は造くられ、人々は生活様式を変えなかつた。そして十七世紀には森林は消失した。消失により土壌が流出し農作物は激減、カヌーも不足し漁業も衰退して食料不足が深刻になった。乏しい資源をめぐって部族間抗争が激化。島の社会は瓦解し人口は数百人にまで減少した。島民の生命を支えていた森が消え去ったあとに巨大な石像のみが残された。ミステリーを抱えたまま。

人口増と浪費型の生活様式を続ければ環境破壊を招き、資源を枯渇させる。自然が収奪の圧力に耐え切れなくなるとき、高度な社会

と文化も没落の道を歩むことになると、残された石像は、あの不可思議な表情をたたえながら現代へメッセージを残したのかもしれない。

廃棄物処理について。一般家庭から出る廃棄物（ごみ、資源も含めて）を自区内のみで処理する事は困難であると指摘された。東村山市内の市民の日常生活から発生する廃棄物は市内で生産された物資だけに限られていない。

市民生活を支える物（食料、衣料、電化製品、自家用車、その他もろもろの日用品）は、ほとんど市外の資源を材料に生産され、その生産物がどつと市内に流れ込んで来るからである。一地域内の生活がその地域だけで生産される物のみで成立するならば、域内処理は可能性がある。現代社会では一地域内の消費物資の大部分は地域外で生産されている。またそれ無しでは成り立たない。この様な生産―消費の構造は一国の枠を越え、相互に海外依存を強めている。

イースター島のごとく絶海の孤島で外との交流が無い閉ざされた地域の例で見たように、その地域に見合った社会生活を持続させるには、その地域の自然循環系を守らなければならなかった。それが今、

地球という限られた地域で求められている。そのためには、生産段階で、ごみとなる物の発生を徹底して抑制する事、再使用可能な製品作り（長寿命、修理、修繕が容易にできる商品）を進める事、最後にリサイクル（再生利用）出来る物の生産と消費を心がける事である。

第二部は市民ごみスピーチと題して、私たちの考えるごみ減量プランの発表が行われた。合計十八の個人、団体、企業などが取り組んでいるごみ減量活動をそれぞれ三分程度で紹介するものであった。小学生グループのスライドを使った説明などもあり、具体的な身近な事例は分かり易い。この様な発表交流会は大変有意義で今後も開催してほしいと思う。

（芳野）



東村山市民ごみフォーラム

『第十三回多摩とことん討論会』

『東京都リサイクル事業協会フォーラム』

去る平成一八年一月二十九日(日)、府中グリーンプラザにて、第十三回多摩とことん討論会が開催された。

また、同日・同場所にて、東京都リサイクル事業協会フォーラム『再生資源リレートーク』も開催された。

●第十三回多摩とことん討論会

①一六年度多摩地域リサイクル率、可燃ごみ不燃ごみ排出量(調布市環境部ごみ対策課 管理係長・秋場 豊氏)

多摩地域のごみ排出量・処理費用・資源化率・最終処分場の推移について説明した。

その後、調布市の廃棄物対策の取り組み(可燃ごみ・不燃ごみの組成分析と資源物との分別状況、家庭ごみの有料化と個別収集の目的など)について報告した。

②水と生きる

SUNTORIYー社会と

自然との共生を目指して

(サントリー㈱武蔵野ビール 工場課長・早乙女明良氏)

サントリー㈱グループと武蔵野

工場の概要、ビールなどの製品の生産過程で使用した水の再利用について説明した。

サントリー㈱グループでは、用水(需要側)と回収水(供給側)について、再使用可能な回収水量と水質の改善程度を把握・分析し、用水利用の最適化を図る方法(ピッチテクノロジー)を導入している。

③多摩地域集団回収量

トップの受け皿として(青梅資源リサイクル事業 協同組合理事長・吉崎稔旺氏)

青梅市の集団回収の現状について説明した。

青梅市の集団回収団体は、平成一六年度現在で一三六団体と減少傾向にある。これは、少子化によって子供の数が減り、地区子供会等が減少したためである。

その反面、高齢化社会の影響で老人会などが、集団回収に参加してきている傾向にある。

また、平成一六年度の集団資源回収量は五、一三四トンで回収量も減少傾向にある。青梅市では、年度を通じて一〇回以上集団資源



第13回多摩とことん討論会

回収を実施した団体に対し、その団体が年度中に受領した報償金総額の二〇%(平成一七年度からは一〇%)を特別報償金として交付している。

④陶磁器製廃食器の

リサイクルを推進

(東京・多摩リサイクル市民連邦 おちやわんプロジェクト 代表・江尻京子氏)

東京・多摩リサイクル市民連邦では、各種リサイクル事業の一つとして、使い終わった不用陶磁器製食器を回収し、粉砕後、リサイクル陶土の一部に再資源化して、リサイクル食器やオブジェを作る取り組みを行っているそうだ。

その為に市民連邦では、「おちやわんプロジェクト」を企画し、岐阜県の研究所と協力して、不用陶

磁器製食器の回収から再利用までの課題と解決方法について研究を重ねているそうである。

また、東京・多摩市唐木田の多摩ニュータウン環境組合リサイクルセンターでは、このリサイクル陶土を利用して、オブジェ作りやリサイクル陶芸教室を開催しているという。

●東京都リサイクル事業協会フォーラム

「再生資源リレートーク」

「パネラー活動報告」

①東多摩再生資源化事業協同組

理事長・紺野武郎氏(回収業界) 日資連(日本再生資源事業協同組合連合会)の概要・活動と「再生資源回収事業者認定制度」の必要性と仕組みについて、「リサイクル化証明書」システムを含めて説明した。

併せて、回収業界の現状と課題について、資源回収コストはごみ回収コストよりも安いという事情や、地域中心のリサイクルシステム作りが必要であることなどを強調して説明した。

②関東製紙原料直納商工組合

理事長・栗原正雄氏(古紙)

古紙の分類とリサイクルの流れ、古紙の回収率・利用率、古紙価格の推移、古紙の輸出入と在庫量な

どについて説明した。

平成一七年一二月末現在の古紙回収量は約二・二二一百万tで回収率は七一・一%、消費量は約一・八五九百万tで利用率は六〇・三%、輸出量は約三七一万t、輸入量は約七万七千tである。

古紙価格は、一九八〇年代後半からは下降を辿っているものの、上下の波は見られない傾向にあったが、最近では古紙輸出の増加などにより上昇している。

③関東古紙維協会

会長・中野聰恭氏（古紙維）

古紙維リサイクルの現状について説明した。

現在、古紙維は排出量が約一〇〇〜一二〇万tであるのに対し、国内消費量が二四〜二五万tと少なく、海外へ輸出されている部分が大い。

いわば、古紙維メーカー不在のリサイクルシステムになってしまっている。

しかしながら、古布ウエスは、環境負荷が少ない環境配慮型商品であり、紙ウエス・レンタルウエスに比べてエネルギー消費が一〇〇分の八、硫黄酸化物・窒素酸化物・CO₂（二酸化炭素）の排出量が一〇〇分の一で生産される。

そこで、CO₂（二酸化炭素）

などの削減の為に、是非古布ウエスの利用を進めたい。

④東京壇容器協同組合

常務理事・土井俊雄氏（生きびん）

びん商の業務内容とリターナブルびん（生きびん）普及への取り組みなどを紹介し、併せて容器包装リサイクル法についての業界としての見解を説明した。

リターナブルびんは、地球環境に負担をかけない・ごみ削減効果がある・おいしく安全に飲める容器である。

また、リターナブルびんは、環境基本法に基づく環境基本計画や循環型社会形成推進基本法でも期待されている容器である。

リターナブルびんの普及が悪化している原因は、飲料メーカーのびん生産の仕組みとそれによるワンウェイびんの増加によるところが大い。

したがって、リターナブルびんの普及の為に、飲料メーカーにびんの回収やリサイクルを義務づける（拡大生産者責任）ことで、びんの回収率や再使用回数の上昇に効果的な共通びんの採用を促す必要がある。

⑤東京硝子原料問屋協同組合

代表理事・菅沢和志氏（カレット）

カレット業界の現状と課題、カ

レットリサイクルの問題点について説明した。

平成十六年現在、ガラスびん生産量は約一五五万t、カレット利用量は約一四〇万t、あきびん回収量は約一〇四万t、カレット購入量は約一〇一万t、ガラスびん出荷量は約一五二万トンである。

カレット業界としては、製壇工場の高品質カレットに対するニーズ対応策として、ソース（原料）カレットの品質向上に向けた自治体への働きかけ、消費者へのガラスびんの洗浄・分別排出の啓発活動、ポトラー（飲料メーカー）への色・形・大きさなどの規格を統一したガラスびん生産の働きかけ、高品質カレット処理の為に最新鋭機械の導入などの独自の工夫などを行っている。

カレットリサイクルの問題点としては、カレット自体の止まらない低価格化、カレット処理過程での二次廃棄物処理費用の高騰、輸入ガラスびんの増加（平成一六年現在で約二七八万t）、ガラスびんの軽量化などがある。

カレット業界の今後の課題は、カレットを利用した新製品の開発、カレット処理過程でのカラーマシンの撤廃などである。

⑥東都魚さい処理協同組合

専務理事中澤輝之氏（魚さい）
食品リサイクル業界の立場から、組合では、魚あらのリサイクルについて説明した

市場、スーパー、百貨店、水産加工所、鮮魚小売店などから、排出される魚あらを回収し、魚粉（フィッシュミール）と魚油に加工して、畜産飼料、養魚飼料、ペットフード、マーガリン原料、石鹸などに活用している。

魚粉・魚油の販売価格は、長期下落傾向にはあるが、組合では、処理・加工の効率化、経費の削減を図り、焼却場で燃やすよりもはるかに安価で「価値の高いリサイクル」を実現している。



東京都リサイクル事業協会フォーラム
「再生資源リレートーク」

〔質疑応答〕

リサイクル業界関係各界のパネ

ラー活動報告に引続き、会場内の参加者との間で、質疑応答が行われ、次のようなやりとりがあった。

Q・リターナブルびんは、現在色・形・大きさが様々で、排出時に持ち運びにくいとか洗浄処理に手間がかかるなどの問題があるが、びん業界として何か対策を考えているのか？

A・びん業界としては、びんの色・形・大きさの規格の統一化を飲料メーカーに再三お願いしている。そのために容器包装リサイクル法の見直し運動も行っているが、全ては飲料メーカーの姿勢次第である。

Q・最近、古紙の輸出が増加しているということだが、今後、輸出した古紙が海外で処理しきれずに、海外で余った古紙が逆に日本に輸入されてきて、国内の製紙メーカーの古紙の在庫量が増えすぎるといった事態になる恐れはないのか？

A・製紙メーカーは、国内の古紙在庫量や古紙の輸出入量などの古紙の需給調整を堅実に行っているし、万が一指摘されたような事態が起きてしまったら、古紙業界にとっては大変なことになるので、そのような事態は起きることはないように願っている。(柿崎)

㈱広島リサイクルセンター研修報告

(三月二十九日、広島県御調郡久井町)

プラスチック、ペットボトル、ガラス瓶のマテリアルリサイクル工場を見学した。同センターは、山陽自動車道の三原久井インターから十五分ぐらいの山の中にあつた。きれいな工業団地の一角であり、敷地は第一、第二工場合わせて二万坪、建屋も合わせて五千坪である。

同センターは広島県の廃棄物組合五十二社の中から有志八社で作った会社である。事業内容は自治体などが分別収集した容器包装プラスチック、ペットボトル、ガラス瓶から異物を取り除き、精度の高い分別を行い再生原料を生産している。

プラスチックは、ペレットの状態に出荷され、バージンプラスチックと混ぜあわせられ擬木、コンテナ、キャリア、ゴミ箱、使い捨てハンガーに再生される。ガラス瓶は、カレット状の原料になり、路盤材となる。

ペットボトルはフレック状の原料となり、卵パック、衣類に再生される。

容器包装プラスチックの処理は、今までは百五十名体制で三ライン

一万五千トン処理していたが、四月から二百二十名体制で六ライン三万一千トンで3交代で可動していくとの事。

容器包装プラスチック、ペットボトル、ガラス瓶は自治体で集めた後、毎年単年度入札にかけられるので、安定して入らない。ペットボトルは買い取りになつてしまひ、ほとんど落札できなくなつてしまつた。今年は五十トンだけだつたらしい。

せつかく落とした容器包装プラスチックも、選別後は五十パーセントしか再生原料にはならず、残りはゴミとして燃料化しなくてはならないらしい。その費用もばかにならないようだ。

説明の後、工場を見学した。建屋の作りが頑丈なので、騒音は外には出ていなかったが、中に入るとにおいはかなりのものである。

やはり一般家庭から出るプラスチックには、食物残渣がかなりついているようだ。人の手が入るのは、最初の異物除去と最終の商品の取扱いだけで、ほとんど自動化されている。とてもきれいで美しいシステムである。



広島リサイクルセンター所長の説明を聞く組合員

ストックヤードには各市別に原料が保管されていた。分別されプレスされた原料から、食物残渣がかなり付着し、においがひどい原料もあつた。電気は重油による自家発電で、最近の重油の値上げにより、電力会社から電気を買うほうが安くなつてしまつたらしい。しかし設備をってしまったので赤字でも使わなくてははいけないようだ。二時間位見学させてもらひ、風がふいてかなりの寒さであつたが、全員で写真を撮らせて貰ひ、所長にお礼をのべて同センターを後にした。

容器包装プラスチックは、各市役所に入札して手に入れる事になつているが、リサイクルにはサーマルリサイクルと、ケミカルリサイクル、マテリアルリサイクルとあるが、大きなシェアをしめるのがケミカルリサイクルだそうだが、



選別機に投入された
廃プラスチック

今年度のP容器包装協会での入札数量は六十万トンあったが、ほとんどは新日鉄JFEスチールなどの高炉メーカーが入札したらしい。マテリアルリサイクルでは品質のことも考えて入札をしなくてはならない。五十パーセントもゴミになってしまうのでは、これから先サーマルやケミカルに勝てないのではと思う。しかしケミカルやサーマルが経費的に一番いいとなると各家庭の分別や製造会社の改善の努力がなくなってしまうのではないか。また、大量消費、大量破棄につながるのではないか。価格を中心においてどう処理するのが適切かという問題を、考えない入札制度にも疑問がおきた。

(吉浦)

今回は当組合の将来の事業として取り入れる事を考えての研修であった。

組合員紹介

J P 資源株式会社・関東事業部

東村山事業所 所長 原口利和

私が生まれ育った所は、彩の国(埼玉県)荒川上流、秩父の入り口、寄居町です。

清流と山の緑に包まれた、自然に恵まれた所です。子供の頃には、春は、山菜取り、秋には、きのこ取り、冬には、ドジョウ等を取った思い出があります。現在は、ゴルフ場が出来てしまい、取れなくなり残念に思います。

昭和二八年に二女、三男の末っ子として誕生し一八歳まで過ごしました。両親は農業と養蚕で生計をたてていましたが、決して楽ではなかったと思います。

父は、農閑期になると、近所の人の車に四、五人乗って東京方面へ土方として、日雇いで賃金を得ていました。父は七三歳で亡くなりましたが、亡くなる前に、青梅の道路、立川の道路は俺達が造ったんだと言っていました。私は、立川、青梅の道を通る時、父の顔を思い出します。

母は昨年一二月に八八歳で亡くなりましたが、孫十一人、曾孫一

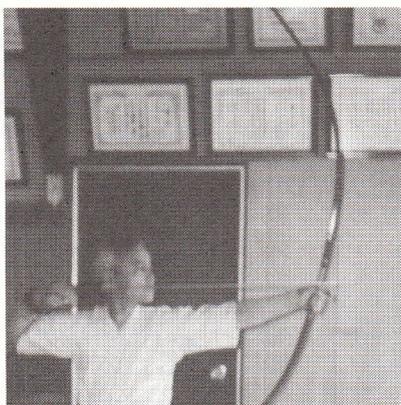
〇人の顔を見れて、幸せだったと思います。

昭和四六年に高校を卒業後、東大和市の飲料製造工場に勤めました。当時は、喫茶店が繁盛し暑い夏には濃縮ジュースを製造するのが間に合わないほどでした。今、思えば、当時、生きビンのリサイクルをしていました。

昭和六〇年に転職、食品会社(味噌卸問屋)に勤めました。

昭和六三年に結婚、平成元年に長女が生まれ、平成五年長男が生まれましたが、バブル景気の崩壊で、平成一二年に閉鎖、次に勤めた八王子の味噌工場も肉の味噌漬けが主でしたので、狂牛病の影響を受け再び閉鎖。続けて二回も会社の倒産を経験した私は、求職活動に疲れてしまいました。この時に支えてくれたのが妻です。偶然に目にした東大和市報に初心者弓道教室のお知らせを見つけて、入会を勧めてくれました。私は、高校時代に弓道の経験があり、長女と共に入会しました。弓道をする事により無心になり、精神統一ができ、癒されたのです。長女も中学生で初段に合格しました。それから、時間の取れる時には、趣味として弓道をしています。

私が、就職先に決めたのは、この



J P 資源・原口利和さん

古紙業界には、倒産は、ありえないだろうと考え、今の会社に決めました。平成一五年にJ P 資源株式会社に入社後、紙のリサイクル等全く判らない私に、前所長に選別の仕方から教えて頂き、現在に至っておりますが、危険と背中合わせの仕事だと実感しております。何故ならば、新聞、雑誌の中から花瓶、鉄アレイ、包丁、ハサミ、電動ノコギリの刃まで出てきます。特に行政回収で入荷した物からは不純物の混入が多く見つかります。また、一部市民の中には、モラルの低い人がいる事に驚かされました。

以上

東村山市・多摩市で

資源抜き取り条例施行へ

抜取禁止条例とは、行政回収の新
聞古紙などを横取りしてゆく抜取
行為を禁止する条例で、全国各地
で制定されているが、多摩地区で
は今のところ実施した自治体は無
かった。

「抜取行為」の害については、本
紙でも再三論じてきたが、この3
月、東村山市および多摩市の市議
会において可決され、今年度中の
施行が決まった。

抜取条例は、行政回収による資
源物の所有権が市および市民にあ
ることを明確にして、定められた
回収システム以外のものの抜取行
為を取り締まるものだ。
今後近隣市の条例化も進むもの
と思われる。

行事・行動

【平成一八年一月】

- 四日：仕事始め
- 六日：中央会賀詞交換会
- 九日：古紙C賀詞交換会
- 一日：定例理事会
- 一六日：東リ協会・理事会
- 二〇日：小平RC責任者会議
- 二一日：東資協賀詞交換会
- 二四日：清瀬市民J.P資源見学会
- 二五日：東北資連理事会（仙台）

二六日：古紙C業務委員会

二八日：組合賀詞交換会

二九日：東リ協会リレートーク
府中グリーンプラザ

三〇日：青年部会議

【二月】

一日：中央会五〇周年式典

二日：(社)東リ協会・設立総会

三日：東村山市廃棄物減量審

四日：日資連理事会

八日：東資協理事会

一〇日：定例理事会

一五日：小平RC責任者会議

二〇日：(社)東リ協会・理事会

二三日：東村山市廃棄物減量審
：青年部会議

二四日：小平市廃棄物減量審
：小平RC責任者会議

二五日：関資連拡大理事会

【三月】

三日：古紙循環プロジェクト

六日：青年部会議

八日：東資協理事会

九日：古紙C利用促進委員会
：定例理事会

一三日：(社)東リ協会・理事会

一四日：西東京業者会議

一五日：西東京業者会議

一六日：段ボールR協議会
：西東京業者会議

一七七日：東村山市廃棄物減量審

一八日：日資連理事会

二〇日：小平RC責任者会議

二三日：柳泉園RC責任者会議

二五日：RC安全講習会六〇名参加

二九日：広島リサイクルC視察

三〇日：青年部会議

【四月】

三日：広報委員会

七日：西東京市集団回収団体
説明会・意見交換⑩

一〇日：東資協理事会

一一日：定例理事会

一二日：広報委員会

一三日：役員会

一四日：東京金属防犯協
五〇周年式典

一六日：広報委員会

一九日：(社)東リ協会・理事会

二〇日：中央会・評議員会

二二日：日資連理事会

二四日：財務委員会

二七日：古紙C業務委員会
：青年部会議

二九日：青年部総会

リサイクル川柳

◎三R

(リデュース・リユース・リサイクル)

乱造 浪費 炉で燃やせ!

◎PSE (電気用品安全法)

リユースするな 買い換えろ

◎環境に

国境は無し 待ったなし
— 改修業者 —

編集後記

日本の景気が良くなっているら
しい。中国の驚異的な発展のお陰
だそうだ。

昔はアメリカがくしゃみをする
と、日本は風邪をひくと言われて
いたが、中国の景気がダウンする
と日本はどうなるのだろうか？肺炎
になるのではないか。

中国の景気もオリンピックまで
ではないかと言う人が私の周りに
は沢山いる。今までの経験から、
オリンピックが終わると不況が来
るのは事実だと思う。

しかし、韓国も日本も今ではG
NP世界十位と二位になっている。
中国人の朝早くから夜遅くまで働
く姿を見ると、何処までも止まる
事無く発展するように見える。

中国の景気次第で日本が揺れる
よりも、中国の産業に日本の産業
が負けてしまい、景気がダウンす
る方が怖い。

スポーツでも中国や韓国に勝つ
のが難しくなったが、ビジネスで
は負けない様に頑張らなくてはと
思う。
(吉浦)

《こんなもの(物) いらないランキング調査》に参加してください

—ご案内—

環境基本法で謳われた3Rの最重要項目が、リデュース(発生抑制)ですが、市場原理の自由主義経済下にあつて、合法的な生産や販売の制限は叶わない話です。

リサイクルを促進する各種法律ができて、動脈産業の売るための努力誘惑は尽きることなく、知らぬまに無駄な浪費につながるシステムに利用されている場合もあります。

そこで我々は『3Rを正しく進める調査隊』を立ち上げて「こんなものいらない」ランキング調査を実施することに致しました。

いらない物を集計して、その都度ワースト順に組合ホームページなどに掲載します。

年齢・性別・生活環境・思想などで、ものの要不要は千差万別ですが、調査隊が集計したワースト10ぐらいのものは、「国民共通の不必要品」としてレッテルを張りましょう。

なお、この運動の推進にアイデアやご意見を頂ける方のご連絡を歓迎いたします。皆様多数のご参加をお願い申し上げます。

—調査方法—

- ①「こんな物いらないと思うもの」をFAXか郵送などでお寄せ下さい。
ただし特定のものを誹謗・中傷するような内容はご遠慮下さい。
- ②性別、年齢、職業、現住地などを書き添えて下さい。
- ③お寄せ頂いた品目を随時集計し、ワースト10品目を当組合のホームページや機関紙「ヴィーナス通信」などで経過報告して参ります。
- ④一年後ワースト10に残った物を「国民共通の不必要品」として発表致します。

東多摩再資源化事業協同組合・「3Rを正しく進める調査隊」本部

住所：東村山市久米川町 1-16-18・Tel・Fax042-395-9788

HPアドレス：<http://www.h-recycle.or.jp/>

※「もの」には、物・者・モノ(システムや法律など)と色々考えられますが、本調査では、物に限ってのランキング調査を行ないたいと思います。

地球環境を守る視点から、発生抑制に沿った「いらない物」を、日常生活の身近な中から見つけてください。

※3R：リデュース(発生抑制)。リユース(再使用、びんなど洗ってそのまま使える物)。リサイクル(再利用、古紙など再び各種紙の原料として使用される物)

